



耳鼻咽喉科女性医師 アンケート調査結果 -自由記載からみえたこと-

森田由香^{1,2)}, 小林一女^{1,3)}, 濱田昌史^{1,4)},
丸山裕美子^{1,5)}, 吉崎智一^{1,6)}

- 1) 日本耳鼻咽喉科学会男女共同参画委員会
- 2) 新潟大学耳鼻咽喉科
- 3) 昭和大学耳鼻咽喉科
- 4) 黒部市民病院耳鼻咽喉科
- 5) 東海大学耳鼻咽喉科
- 6) 金沢大学耳鼻咽喉科

対象と方法

・日本耳鼻咽喉科学会
女性会員 2554名

・2018年11月
アンケート調査を実施
(10年前と比較するため、同内容)

・自由記載の項目を検討

- ✓ 後輩女性医師へのアドバイス
- ✓ その他ご意見

結果

・総回答数1424/2554件

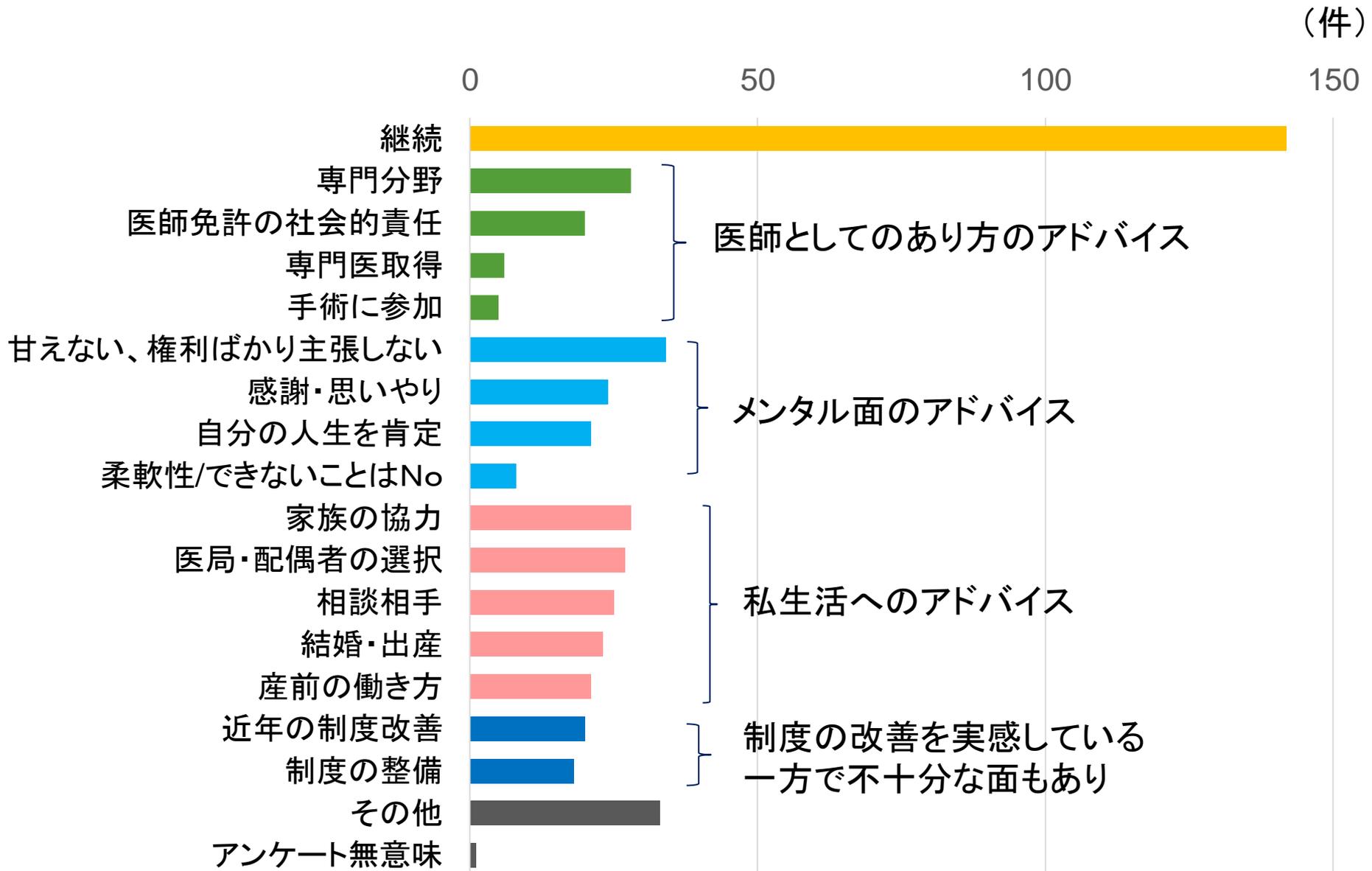
・回収率 55.8%

・自由記載回答数

- ✓ 後輩女性医師へのアドバイス 400件
- ✓ その他ご意見 308件

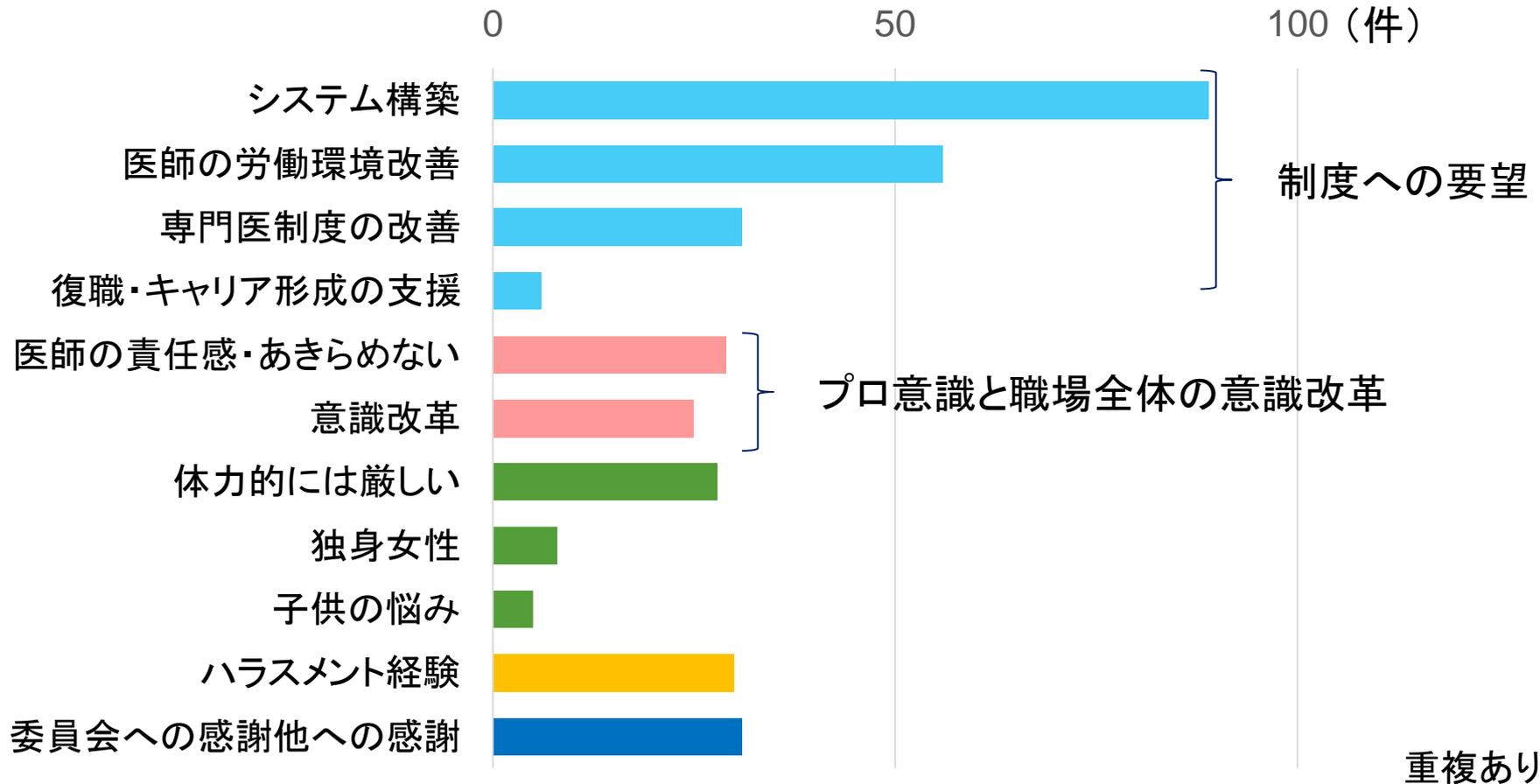
後輩へのアドバイス

400件



その他ご意見

308件



- ・制度を利用できるシステムの構築とともに職場の意識改革(上司もキャリア形成する医師も)
- ・どのような仕事形態であっても、プロ意識をもつ
- ・ハラスメント経験も30件と数多く報告あり・・・

自由記載から
みえた
Key Words

継続



専門性



柔軟性



感謝





継続

- ✓耳鼻科医としてどのように**社会へ貢献**するのかを、考えて、仕事を続けて下さい。
- ✓仕事をどんな形でも、**続ける意欲**を持って下さい。
- ✓**興味のあること**みつけて、楽しみながら仕事をつづけて下さい。



専門性

- ✓ 自分はこれはだれにも負けないという**only one**を身につける事が大切です。
- ✓ 若いうちにライフワークを見つけて下さい。ライフワークを見つけて、続けることで、**自分が医師として歩んだ足跡**となります。
- ✓ 医師は続けることにより自身も成長できる素晴らしい仕事です。ぜひ何か**得意分野**をみつけて、キャリアを継続して下さい。

✓女性医師だから、すべてが優遇されることはありません。

職場の仕事のバランス、家族の生活のバランス、自分の生活のバランスを
考えて行動することが大切です。

✓無理をしてできない仕事をひきうけて身体や精神、家庭をこわしたり、
すぐ離職するのは知的な対応とはいえません。ときには**NOという勇気**が必要で
す。

また、自分がNOと言ったときには、それをかわってひきうけてくれる人への感謝
の気持ちと、「代わりに自分には何ができるか？」という工夫が大切だと思いま
す。

できるタイミングでできることで社会に返せばいいと思います。

✓女性は、男性よりも**多彩な進路の選択肢**が
ある。どれも間違いではないので、
遠慮したり引け目を感じることなく、
自分らしい道を歩んで欲しい。

柔軟性

✓出産、育児と仕事との**バランス配分**について、
自分の希望、考えをしっかりと持つことだと思います。



✓一人として同じ条件はないので他人と比べることなく
与えられた環境で頑張ってください。
そのうえで**周りの方への感謝**を忘れないで欲しいです。



✓出産、子育てをする医師も、しない医師も、
気持ち良く働けるように**お互いに気遣い**が大切。
出産、子育てのみが優遇されるようではダメ。

感謝

✓女医ができない事をしている男性医師に**敬意**が必要です！！

✓出産での休職はやむを得ないことで、権利もあると思いますが、
特に少人数の勤務体系の中では、周囲に負担を強いるのも事実です。
カバーできる体制が構築されるまでは、“**周囲への配慮の気持ち**”が必要
と思います。

今後の課題

医師労働環境改善

✓男女平等はもちろん必要ですが、それだけで終わらせず医師の応召義務、

救急車の適正利用、治らない病気もあることを一般の方々にわかっていただく・・・など、**医師全体の働き方を変えていく議論**にしていただければと思います。男性医師にしわよせがいくのはそのパートナーにとっても良くないことだと思います。

専門医維持が困難

✓専門医の制度が変更になり、**更新するのが本当に大変**になりました。子どもがいると学会に参加するのが難しく、自宅で出来る**eラーニング**がもっと耳鼻科でも取り入れられたらと切に願います。

今後の課題

多様性の理解

- ✓ 妊娠・出産・子育てのサポートについては力を入れているが、それに至る前段階(結婚・不妊)に対する理解が男性・女性共に乏しいと思われる。案外、子供ができないつらさを理解できない人が多いと思う。子育てと同様に、**不妊治療**についても力を入れてほしい。
- ✓ **介護**が必要な世代にも、育休、産休に似たような制度を使って欲しい。
- ✓ 妊娠や産休へのサポートは増えているが、**独身で子供のいない女医の要望**は受け入れてもらえない。

今後の課題

意識改革

- ✓ 職場の上司が常に育児との両立について深い理解を示してくれたことが、本当にありがたかった。全ての若い女性医師が、女性としても医師としても充実した人生を送ることができるよう、男性医師の理解を祈ります。
 - ✓ 医局に「女性は出産したら辞めるもの」という認識が当然になっている。そのため余程自分にやる気がないと常勤としては残れないと思う。
意識を変えていくことが重要
- “時間がないと仕事ができない”という先入観がまだ根強く存在

一方で、キャリア形成する医師の意識改革も必要

プロ意識、モチベーション etc.

女性医師としてのキャリア形成

継続



労働環境改善
と
意識改革

専門性



柔軟性



感謝



まとめ

女性会員対象のアンケート調査を行った。

制度の整備は進んだが、意識の変化はまだ十分とはいえない。

医師の働き方を考えた上で、性別、年齢、生活環境などの多様性に応じた対応が必要と考えられる。

謝辞

アンケートにご協力いただきました先生方に
厚く御礼申し上げます。